

学校評価特集号NO5すくすく 元気いっぱい

防災

美咲野小では、1月にPTA主催で、どんどやを実施しています。H29年度からは、どんどやに併せて防災イベントも実施しています。美咲野ベースの方々や様々な地域の方々が協力し合っ



て炊き出しをするなど、年々進化しています。

昨年度は、防災グッズ展示や非常食試食会をしましたが、今年度はエントランスホールに仮設の部屋を作り、地震が起きたらどうなるのかを体験できるブースを作っていました。



年々、学校と保護者、地域の繋がりが太く強くなっているのを実感します。

左のグラフから、学校が反省すべき点が多々見えてきます。保護者・職員の「防災に関して指導しているか」児童の「災害時に自分で考えて行動できるか」の問いを比較すると、「当てはまる」との回答は、児童が一番高く、職員が一番低いのです。熊本地震の風化は児童ではなく、職員側にあるということです。また学年別に児童を見た時、高学年の低さや「自分で考えて行動できない」と答えている児童が一定数いるということもわかります。学校での防災教育を継続させることが大切です。

この結果を受けて、職員からは次のような意見が出ました。

職員の声

- 道徳教材「つなぐ」を使った授業を確実にする。
- 避難訓練だけでなく、集会など全校児童が集まる機会を捉えて防災意識を高める。
- 遠足の時だけでなく、一斉下校（運動場に地区毎に並び登校班で下校）を前後期1回ずつでも実施したい。

引き渡し訓練も継続して実施する必要がありますね。これまでの引き渡し訓練は、土曜授業の日の昼頃行っていましたが、平成31年度は、6月の教育の日の夕方に予定しています。災害はいつ起こるか分からない。それを想定して訓練をすることも大切だという考えからです。

美咲野小だより



NO.19

H30.3.14

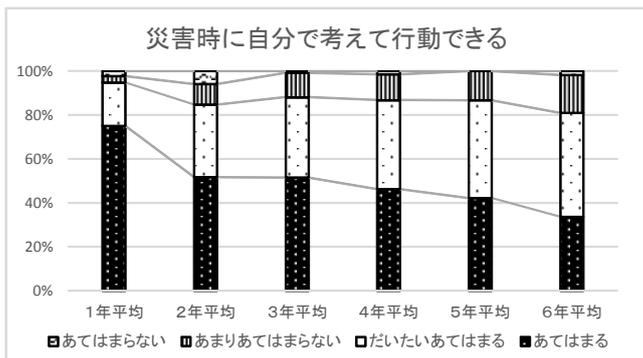
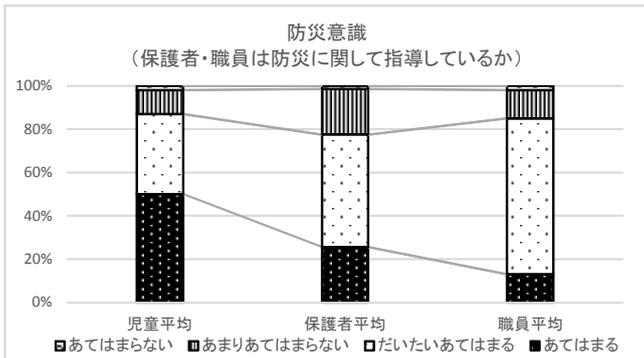
大津町立

美咲野小学校

文責：草場ルミ子

熊本地震の

東日本大震災から8年、熊本地震から3年過ぎました。この他にも地震や豪雨災害などが発生しました。いつ、どこで、どんな災害にあうか分からない時代です。1月下旬、福岡県朝倉市の豪雨災害を受けた小学校跡地に行く機会がありました。泥にまみれたピアノ、あちらこちらの壁には水がきた跡が、生々しく残っています。学校横の小川が、濁流になっていく動画も見ました。改めて、日頃からの備えの大切さを感じました。大人だけでなく、子どもも意識もとても大切だと思います。熊本地震後、休校となり、5月9日に学校は再開しました。当時の学校の様子や、皆さんの思いを美咲野小だよりにまとめた美咲野小便りが、ホームページ上にあります。時間があるときに、見ていただくこともよいのかなと思っています。



H30年6月 引き渡し訓練の様子



